

彙報 (会報・会員消息)

○例会 (1965年度) 第一 3 回: 11月27日午後1時半, 於大阪府農林会館5階, 山田信夫氏「中央ユーラシア史の構想」(日本オリエント学会関西支部会〔第11回例会〕)と共催。

○大島清氏 (東大名譽教授) は西アジア文化遺跡発掘団長としてテル・ゼロール第2次発掘に参加された (6月29日出発9月上旬帰国)。

○藤本勝次氏 (関大文学部教授) はマラヤにおけるイスラム社会の現状調査のため7月5日発マレーシア連邦に出張, カイロ・バグダード歴訪の上10月6日伊丹に帰着された。

○上野照夫氏 (京大教養部教授) 編『インドの文化』(『世界の文化』3) は7月31日発行 (河出書房), 同じく同氏の『インド美術』上下2巻 (高田修氏と共著) は11月20日発行 (日本経済新聞社出版局)。

○足利惇氏氏 (東大名譽教授 東海大文学部長本会会長) の『Sukhāvativyūha』は8月刊行された (法蔵館)。

○岩村忍氏 (京大人文科助教授 京大東南アジア研究センター所長) は欧米各国におけるモンゴル研究の現状調査および国際大西洋会議と天下思想に関する会議に出席のためデンマーク, 仏, 西独, アメリカ合衆国に出張された (8月18日~9月16日)。

○梅棹忠夫氏 (大阪市大理学部助教授) は京大人文科助教授に転任された (8月1日付)。

○岩本裕氏 (京大文学部講師) の『極楽と地獄』は8月25日発行 (三一書房)。

○長尾雅人氏 (京大文学部教授) はウイスコンシン大学における仏教学についての講義並びにインド学および仏教学研究の現状調査の為8月25日発渡米された (帰国は41年9月15日の予定)。

○有光教一氏 (京大文学部教授) は「アフガニスタン・パキスタンにおける遺跡の一般調査と発掘調査のため9月3日発アフガニスタンへ出張11月22日帰国された。

○三笠宮殿下 (日本オリエント学会会長) は第11回国際宗教史学会出席のため9月5日発渡米 (ボモナ大学), 終了後アメリカ・カナダ各地歴訪の上10月4日帰朝された。

○中村尚司氏 (アジア経研調査研究部南アジア調査室) はセイロンの経済発展と農村の経済構造研究調査のため9月22日発セイロンへ (セイロン大学に在籍の予定)。

○加藤一朗氏 (関大文学部助教授本誌編集委員) の『古代エジプト王国』は10月7日発行 (講談社『ミリオンブックス』218)。

○小野山節氏 (京大文学部助手本会幹事) の「アンドレ・パロ著『アッシリア』」(中山公男氏と共訳) は10月25日発行 (『人類の美術』第2巻——新潮社)。

○宮崎市定氏 (東大名譽教授) はハンブルク大学における講義のため10月28日京都発渡欧された。

○岡崎正孝氏 (アジア経研調査研究部西アジア調査室) は11月10日発イラン・シリア両国へ出張, カスピ海沿岸地方農村の社会経済構造の研究を目的として同地方の村落で集中的な実態調査に従事される (帰国は41年1月中旬の予定)。

○藤吉慈海氏 (京大人文科助手) は12月1日~41年1月20日の予定で東南アジアにおける仏教各団の実態調査のためタイ, ラオス, マレーシア連邦, 中華民国に出張された。

本誌前号正誤表

頁行	誤	正	頁行	誤	正
iii 3	8月4日	8月20日	82 13	Amar-ú-šer/du ₁₃	Ama-ú-šer/du ₁₀
12	昭和9年3月	昭和6年3月	- 2	Amar-	Ama-
13	// // 12月	昭和9年12月	86 2	ウマン軍	ウンマ軍
v 19	Wang An-Shih1963.	削除	87 12	4列6縦隊	4列6人縦隊
22	於ける)『史林』	於ける) (訳)『史林』	14	//	//
26	黄現璠訳	黄現璠訳?	15	文章	文書
vi 25	支起古今人物	支那古今人物	90 18	rupak	uppak
vii 18	五嶽真形観	五嶽真形鏡	93 14	また教授は	また教授はその ケンギル同盟の
ix 2	幕布	幕友			

あとがき

○頁の都合で彙報を大幅に割愛したが一部は次号を期したい (イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査関係や奨励会員芳名録など)。

○足利会長からは5万円の御寄付を頂き深謝にたえない。

○致文論文は本誌初めての試み。むしろ遅すぎたかも知れぬ。アダム氏の御好意深く感謝したい。